

鍼灸国家試験対策

解剖学・生理学

1. 消化器の構造と機能

(1) 口腔の構造と機能

<p>【構造】</p>	<p>口 腔</p> <p>① 口腔の粘膜は重層扁平上皮である。</p> <p>② 口腔の天井を口蓋といい、前2/3を硬口蓋、後1/3を軟口蓋という。</p> <p>舌</p> <p>③ 舌乳頭には糸状乳頭、茸状乳頭、有郭乳頭、葉状乳頭がある。 有郭乳頭、葉状乳頭には味蕾がある。</p> <p>④ 舌の前2/3を顔面神経、後1/3を舌咽神経が支配する。</p> <p>歯</p> <p>⑤ 歯は釘植により連結している。</p> <p>唾液腺</p> <p>⑥ 耳下腺は口腔前庭に開口し、舌咽神経に支配される。 顎下腺、舌下腺は舌下小丘に開口し、顔面神経に支配される。 唾液分泌中枢は延髄に存在。</p> <p>扁桃</p> <p>⑦ 口蓋扁桃、舌扁桃、咽頭扁桃、耳管扁桃(ワルダイエルの咽頭輪)</p>
<p>【機能】</p>	<p>① 口腔内では咀嚼、嚥下運動が行われる。</p> <p>② 嚥下運動は3相にわかれ、第1相は随意運動、第2・3相は反射運動である。 (反射中枢:延髄)</p> <p>③ 唾液の成分はアミラーゼとムチン。 アミラーゼはでんぷんをマルトースに分解する。</p>

(2) 食道の構造と機能

<p>【構造】</p>	<p>① 咽頭に続く部分で、第6頸椎の高さで始まり、脊柱の前、気管の後ろを通る。 横隔膜を貫き(食道裂孔)、胃に達する。</p> <p>② 生理的狭窄部:食道の入り口(輪状軟骨の後ろ) 気管分岐部の高さ(大動脈弓との交叉) 横隔膜を貫くところ(食道裂孔)</p> <p>③ 食道下部には下部食道括約筋(噴門括約筋)がある。</p>
<p>【病 気】</p>	<p>① 逆流性食道炎(胃食道逆流症) 下部食道括約筋が弛緩すると逆流しやすくなるため。</p> <p>② マロリーワイス症候群</p>

(3) 胃の構造と機能

<p>【構造】</p>	<p>① 食道から連なり、十二指腸へ続く。</p> <p>② 入り口を噴門、天井を胃底、出口を幽門、 左に弯曲する胃の外側を大弯、内側を小弯、 小弯の一部で急角度に曲がる部分を角切痕という。</p>
-------------	---

	<p>③ 幽門部には幽門括約筋がある。</p> <p>④ 腹膜で覆われ、小弯で小網、大弯で大網となる。</p> <p>⑤ 胃腺があり、主細胞はペプシノゲン、壁細胞は塩酸(HCL)、副細胞は粘液(ムチン)、G細胞はガストリンを分泌する。</p>
【機能】	<p>① HCL: ペプシノゲンをペプシンにする 胃内容の殺菌、消毒作用 セクレチンの分泌促進 鉄を吸収しやすい形に変える</p> <p>② ムチン: HCL から胃粘膜を保護</p> <p>③ ペプシノゲン: タンパク質を分解する</p> <p>④ 胃液には①～③以外にもビタミン B₁₂の吸収に必要な内因子が存在する。</p> <p>⑤ 胃液の分泌は自律神経とホルモンで調整される。 副交感神経(迷走神経)で促進し、交感神経で減少させる。 (自律神経) ガストリンで促進し、セクレチンで抑制する。 (ホルモン)</p>
【病気】	<p>① 胃潰瘍 ストレス等を受けるとコルチゾールの分泌が促進され、ペプシン・HCL の分泌増加、ムチンの分泌減少が起こる。</p> <p>② 胃切除: 鉄欠乏性貧血(鉄の吸収障害)、 巨赤芽球貧血(ビタミン B₁₂の吸収障害)</p> <p>③ 胃 癌</p>